

対象学年					
幼稚園・保育園	小学校			中学校	一般
年長	低学年	中学年	高学年		

ネイチャー・オリエンテーリング (楽しい自然観察)



プログラムの概要

キゴ山の森は、昔から人々に多くの恵みを与えてきた森でした。日常の食事の材料とする山菜やキノコが採集出来たり、燃料としての薪や炭、適したドングリの木（ナラ、コナラ、カシ、クヌギ）が多く生える森でした。また、標高が4、500mに位置しており、第2次林（薪炭林）としての森林と共に、旧放牧地であった草地も広がり、遠くは白山まで眺望出来る高原的な景観も素晴らしいものがあります。

その森と草原には、数多くほ乳類や鳥類、昆虫などの動物が住み、それを支える樹木や山野草が植生豊かに保全されています。

このプログラムでは、

- ・豊かに保全されている動植物に親しむ。
- ・森林のつくりや役割に気づく。
- ・動植物相互のつながりに気づく。

などについて自然観察体験を通して学ぶこととしています。

所要時間：半日（2～2.5時間）

銀河の里キゴ山

ネイチャー・オリエンテーリング

(楽しい自然観察)

1. 活動のねらい

このプログラムでは

- ・豊かに保全されている森林や生息する動植物に親しむ。
- ・森林のつくりや役割に気づく。
- ・動植物相互のつながりに気づく。
- ・高原的景観の中で地理的感覚を豊かにする

ことなどをねらいとして、自然観察する楽しみを感じて欲しいと願っている。

2. 活動場所

- ・キゴ山山頂とその周囲の森林と草地内の散策路（地図参照）
- ・銀河の里キゴ山のドングリ広場のアベマキの木をスタートとし、7つのポイントが設置された範囲を巡る。（専用の標識設置）

3. 活動人数・規模

- ・人数に関係なく一日1団体とする。
- ・班を編制して実施する。
- ・5つのチェックポイントに引率指導者の配置が必要である。

4. 準備品等

- ・団体・個人で用意するもの
筆記用具、観察用ボード、カップ、長袖長ズボン、軍手、長靴かズック、ナイロン袋（透明ケース）、笛（班で1個）、救急箱
- ・館が用意するもの
地図、ポイント紹介、チェックポイント（看板・設問：課題・筆記用具・その他）
熊よけ鈴、蜂スプレー、トランシーバー、救急セット

5. 活動の手順

(1) 事前学習（銀河の里に来る前の学習）

- ・特になし
- ・可能であればキゴ山や自然観察についての動機付けが望ましい。

(2) 引率指導者との打ち合わせ

- ・引率指導者の配置場所の確認
- ・引率指導者の役割
プログラムの内容に関する役割（ポイントでの指導・説明）
安全対策に関する役割（班の通過確認・人数確認・班の状況確認）

(3) 児童生徒向けオリエンテーション

- ・時間いっぱい使ってゆっくり、じっくり観察することが大切であることを知るねらいや活動の仕方や注意事項について理解する。
- ・地形について理解する
- ・解説（各自1）コース地図（各自1）安全資料（各自1）を事前に配布する。

(4) 設置ポイントと設問・課題（地図参照）

	活動ポイント名	活動内容	活動用具 (数量等)	指導員配置
1	方位調べ	山頂・展望台から目標物を探し、道具を使って方位を調べる 双眼鏡を使っての眺望を楽しむ（方位針と双眼鏡の使い方）	方位磁針 (12) 双眼鏡(12)	○
2	あべまきの直径調べ（高さ調べ）	円周率や相似比を使って、あべまきの木の直径や高さ、樹齢を推測する （説明用の資料に基づいて計測・算出 年輪と樹齢の説明）	巻き尺(2) 年輪木盤(1)	○
3	大地の目Ⅰ （草地）	草地に横になって空や雲、風の動きを観察し、目を閉じ鳥の鳴き声などに耳を傾ける	ブルーシート(2)雲の解説図(1)	○
4	森の温度調べ （歩きながら）	森の中、草地の様々な場所（光の当たる場所、あたらない場所、土、水の中など）の温度を推測し、計測した温度と比較する。（観察ポイントは班ごとに決める）	温度計 （班に1）	
5	森の木の様子	キゴ山の樹木の主な種類（コナラ、ホウノキ、クロモジ、ツタ等）の樹皮や森の中の木の枝のつき方、葉の模様などを観察する。（樹皮を写し取る）聴診器で木の音を聞く クロモジはにおいを嗅ぐ	赤いテープ 解説板(各1) 聴診器(6)	○
6	森の腐葉土	腐葉土の表面から順に剥がし落ち葉が土に変化している様子を調べる	イチゴパック(各班3) 土壌生物説明板	○
7	大地の目Ⅱ （森の中）	目隠しをして寝転び、鳥の声や風の音、など五感を使って感じカタカナで表現する	目隠し(12) ブルーシート(2)	○

8	炭焼き窯跡発見	草木に隠された炭焼き跡を見つけ、この森が薪炭林として利用されていたことに気づく	説明看板設置	
9	アニマルトラッキング（動物の食痕探し）	森に住む動物の痕跡探す。 （足跡、爪痕、巣穴、食痕、ふん、木の幹に開けられた穴など）	カメラ （各班1）	
10	私の宝物探し	森に落ちている自分だけの宝物を採集してくる（しおりに貼付） ※出会った動植物、景色、見たもの、聞いた音・鳴き声、におい、触った感じ……	カメラ （各班1） ポケット図鑑（各班1） 採集用袋	
11	俳句（短歌）づくり	自然の中で感じた思いを俳句や短歌にあらわし交流する	下書き（キーワード）	

（5）活動の振り返り（活動終了後）

①グループごとの振り返り

- ・班ごとに振り返り、互いに見つけたことなどについて分かち合う。
- ・見つけた宝ものや俳句や短歌を披露し合う。

②全体での振り返り（グループの代表が発表する。）

5. 活動の留意点

（1）活動全般

- ・引率指導者のポイントでの役割について理解しておくことが大切である。
- ・事前に活動場所の情報を所員から聞いておくことが大切である。可能であれば予察して危険な箇所や動物等の確認をしておく。
- ・野外での活動や服装は長袖、長ズボン、長靴を用意する。
- ・標高400mにある少年自然の家は、年間を通して気温が低めで、天気の変化も急なので、夏季においても防寒着（上着や手袋等）や雨具（カッパ）の準備は欠かせない。

（2）自然観察

- ・活動の振り返り（フォローアップ）を活動時間に組み込むなど大切にする。
- ・自然体験活動では発見したことなどの「分かち合い（共有）」を大切にする。

ネイチャーオリエンテーリング

